

医療国際展開について



一般社団法人 日本病院会 名誉会長

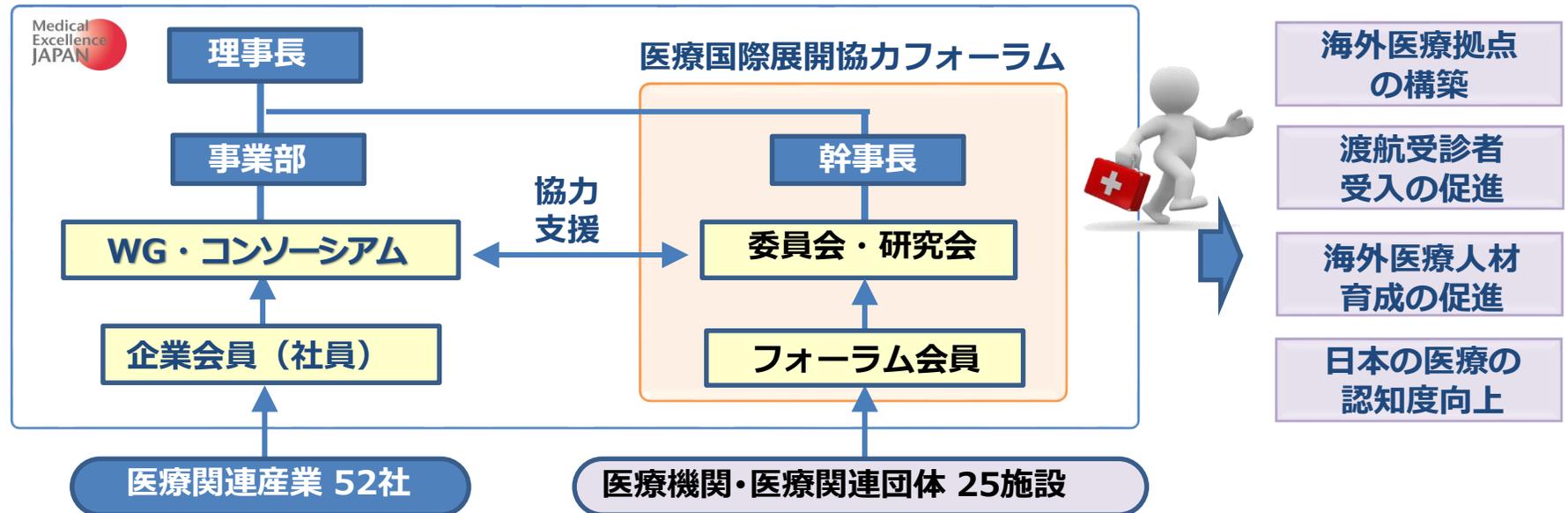


一般社団法人 Medical Excellence JAPAN

理事長 山本 修三

医療国際展開協力フォーラムの発足

医療の国際展開を迅速かつ持続的に推進するため、関心を持つ医療機関、医療関連団体を会員として発足し、会員間で知識や経験の共有、相互に協力関係の構築を図る場を提供する。



日本国際病院(仮称)の公募

- ◆ 7月4日(月)より公募を開始し、応募施設の書面・訪問調査を実施中。
- ◆ 医療渡航支援企業の認証は2社が更新した。

日本の医療のグローバル連携を成長させる仕組み

■ 医療渡航受診者受入促進のため、環境を整備

- ①日本国際病院（仮）の**推奨数の充実と環境整備支援**
- ②認証医療渡航支援企業の**認証社数の充実と質の向上**

■ 今後の対応

- ③日本国際病院（仮）が安心して受入可能な**紹介元海外医療機関の連携整備**（アウトバウンド事業連携）



地域創生による日本の国際医療展開の進化に向けて

今後、地方都市の病院に生じる問題(地方都市の人口動態から)

①地域の患者数が減少する

- 検査数減少、高額検査機器の稼働が困難に
- 治療数減少、専門の機器や人材の維持が困難に
- 入院数減少、空床増加し病床運営効率が低下
- 関連サービスの稼働数も減少、効率化が急務に

③医療資源の質と量は、ピーク時のまま

- 地域に複数の急性期病院。潤沢な医療資源を保持
- 地域内の病院間で機能分化が進まず現在に至る
- 限られた地域で患者数減少し、病院運営が困難に
- 医療資源に必要な稼働数なく、維持費を圧迫

②後期高齢患者比率が年々高まる

- 複合疾患を有し、複数科受診の対象患者が増加
- 体に負担が少ない、予後の良い治療が必要
- 高齢者を支える人口も激減。医療側に課題増
- 年少人口も減少。小児・産科は維持困難。

地域医療の崩壊プロセスが動き始める

- 高齢人口減少転換、患者急減。供給過剰顕在化
- 医師散逸し、各部門が疲弊。診療体制が崩壊へ
- 科目や機能が欠落し、患者流出。居住不安へ

地域創生による日本の国際医療展開の進化に向けて

地方都市の医療を活性化し、健康長寿社会を構築。そして世界へ

①地域医療の活性化のしかけ

需要と供給をフィットさせ、地域の医療資源を集約。高度先進医療資源を地域全体で獲得し運営・経営へ。

- 高度で先進的な施設・設備・機器の医療機能集約
- 病院個別の医療提供から地域一体の医療提供へ
- 健康長寿生活の支援と医療サービスの連携へ

②地域医療の活性化の過程で生じる変化

複数病院が地域で共同して高度先進医療を運営することが、手詰まりの機能分担や医療資源再編を解決。

- 医療提供対象医療圏が拡大。医療資源の再分配へ
- 共用化で複数シフトを実現し高稼働運用可能に
- 医療者の流動化を誘導し、医師偏在の一助に

③地方都市の健康長寿基盤の構築へ

医療の効率や魅力を活性化することが、コンパクトで維持が可能な健康長寿都市基盤の構築につながる。

- 高度で先進的な医療を求め患者(住民)が集約化
- 安心の医療で健康長寿都市への定住に道筋を
- コンパクトさが多用な高齢者関連サービスを実現

I. 先進検査機器の高度な診断で早期発見

II. 低侵襲治療で負担の少ない治療手段

III. 渡航頻度も少なく短期の入院

IV. 予後が良好で安心できる医療品質

地域の高度先進医療が医療渡航ニーズに合致

インバウンド拠点・渡航患者数の拡大

インバウンド連携・アウトバウンド拠点の拡大

新興国の医療ニーズにも合致する

I. 医療資源の不足に、効率的配備を実現

II. スタッフ不足に、高稼働に患者診療

III. 原資不足に、重篤患者の発生を抑制

IV. 高齢化の進展に、健康長寿基盤整備